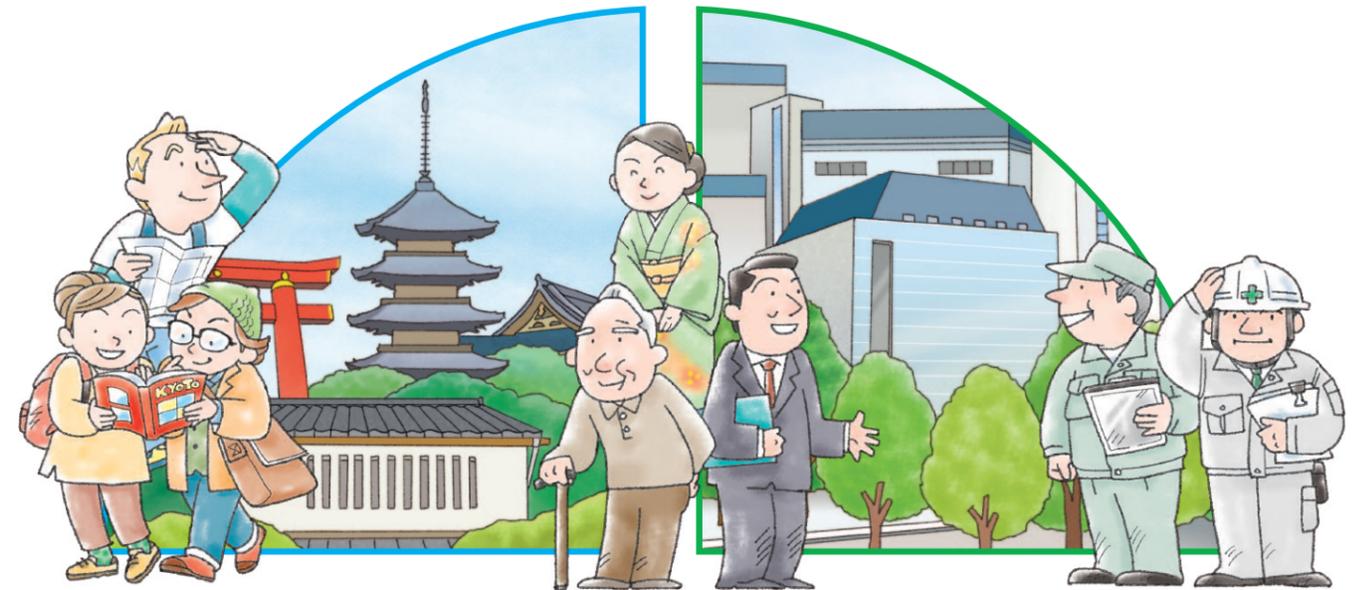


かどかわ大作戦2016

市民のみなさまとの

「安心・豊かさ実感」

133のお約束



未来の京都をつくる会

〒604-0052 京都市中京区御池通油小路東北角
TEL. 075-254-8870 FAX. 075-254-8871

未来の京都をつくる会

私の決意 2

京都経済のさらなる活性化と安定した雇用の創出

① 京都経済のさらなる活性化と安定した雇用の創出 4

市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実

② 福祉、医療、安心・安全、健康長寿のまちを実現 8

③ 子育て・教育環境日本一をめざして 11

④ いのちと暮らしを守る、災害に強いまちづくり 15

“こころの創生”、“世界の文化首都・京都”を実現

⑤ 市民ぐるみで環境にやさしい循環型社会を構築 18

⑥ 文化芸術都市、スポーツ都市、世界の観光都市 21

⑦ 歴史力・地域力を活かしたまちづくり 24

⑧ 安心・活力を生む都市づくりと歩くまち京都の推進 27

府市協調による「さらなる二重行政の打破」と、財政構造の抜本改革

⑨ 参加と協働による区のまちづくりを発展 30

⑩ さらなる二重行政の打破と財政構造の抜本改革を実行 32

⑪ 市民が主役の市政を推進 34

私の決意 かどかわ大作さんは次のように述べています

笑顔と活力に満ちたまちをつくりたい

皆様のご支援で市長就任8年。京都の今と未来のために、徹底した現地現場主義で全力を尽くしてきました。多くの皆様と出会い、元気、勇気、感動を頂きました。

道で出会ったお年寄りとお話したときに握った手のぬくもり。イベント会場で声をかけていただいた親子の笑顔のやさしさ。熱く語り合った学生さんたちの思い…。

そんなお一人お一人のぬくもり、やさしさ、思いの熱さを胸に刻みながら、誰もがいのちを輝かせ、個性と能力を発揮し、人と人の絆を大切に安心して豊かに暮らせる京都をつくる。そして皆様と共に京都の未来を、たくさんの人の笑顔とまちの活力に満ちたものにしていく。これが私の政策の原点です。

共に汗して成果を共有

この間、厳しい財政状況の中、いばらの道でもありましたが、市会との連携のもと、行財政改革を断行しつつ、福祉や教育・子育て支援の

充実、市民生活の安心安全を守り、中小企業・地場産業の振興とともに、未来への先行投資も積極的に行いました。市民の皆様と共に汗する「共汗」により、多くの成果を共有できました。

課題克服に道筋

しかし、経済対策、人口減少など、なお課題が山積しています。これらに対しても、市民の皆様と共につくり上げた、「京都の未来像」を描いた「はばたけ未来へ!京プラン」の一層の取組強化を図り、また、「こころの創生」を重視した京都ならではの地方創生「京都創生」をスタートさせるなど、課題克服の道筋をつけてきました。

私は、大好きな京都の輝かしい未来に向け、引き続き市民の皆様と共にこの道筋をより確かなものとするため、全力で市政を担わせていただきたいと決意しました。

そして新たな挑戦

3期目にのぞみ、次の4点を政策の柱に据え、新たな挑戦を行う覚悟です。

第一に、京都の文化や地域力・知恵を生かし、京都経済の活性化と安定した雇用の創出を図り、市民生活の豊かさに結びつけます。

第二に、市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実します。

第三に、日本の“こころの創生”を牽引し、“世界の文化首都・京都”を実現します。

第四に、府市協調による「さらなる二重行政の打破」と、真の地方分権改革をリードする自治の構築、財政構造の抜本改革を進めます。

市民の皆様お一人お一人を想い、優れた地域力、人間力を活かし、共に京都の未来を切り拓く。そして、世界の平和のために貢献する。そのために力の限りを尽くすことをお約束します。



京都経済のさらなる活性化と安定した雇用の創出

京都の文化や地域力・知恵を生かし、「知恵産業」の創造など、「京都経済のさらなる活性化と安定した雇用の創出」を推進します。



回復基調にある京都経済を、中小企業、地場産業や市民の皆様が実感できるよう、しっかりと支援します。

産学公連携による知恵産業育成や、多様で活力ある中小企業・ベンチャー企業の成長支援、地域の暮らしを支え魅力をもてる商店街づくり、伝統産業の活性化、農林業の振興と食文化の創造・発信など、京都の強みを最大限に生かした成長戦略を推進。京都のブランド力向上や、市民の購売力向上と地域での消費喚起などにより、経済のさらなる活性化と好循環、安定した雇用の創出を図り、市民生活を支えます。

主な実績

- ◆ 経済界も含めオール京都で中小企業新規融資枠の確保、海外進出支援、入札制度改革、公契約基本条例制定、新産業の創出などで、市内中小企業の下支えと成長支援、「日本酒で乾杯条例」で日本文化、伝統産業を振興
- ◆ 市中小企業支援センターと商工会議所経営相談センターを融合し、相談員を47名から57名に増員
- ◆ 区役所・支所内へのハローワーク「福祉・就労支援コーナー」設置(13箇所)、多くの方が就労へ

主な施策

京都経済百年の計！ 京都の総合力で「京都経済センター」を 創設し、中小企業支援を強化します

京都市、府、経済団体等を挙げて、繊維産業の振興や中小企業の育成・支援などの拠点施設を整備します。

立地(四条室町)を生かし、賑わい施設を整備し、都心部の魅力を向上させます。

中小企業振興に知恵と力を結集！ 「中小企業振興会議」を設置し、 条例制定等、効果的な振興策を実行します

中小企業振興のために関係者による「中小企業振興会議」(仮称)を発足させ、条例による手法等も含めて、実効性ある振興策を検討し、実行します。

中小企業の後継者への 事業承継等を支援します

経営者の高齢化や後継者の不在等で、事業継続が困難な中小企業に対し、事業引継ぎ支援体制を整備します。

業界団体が、専門家の助言を得ながら、自らの強みや課題を分析し、課題解決やイノベーション創出を図る取組を支援します。

ジェットロと連携し、オール京都で中小企業の海外展開支援を進めます。

世界に誇る京都の中小企業と 若者・学生とのマッチングシステムを 構築し、支援します

京都の若者・学生と、人手不足に悩む中小企業とのマッチングを進めるため、インターンシップの仕組みをつくり、支援します。

公共工事・サービスの市内中小企業の 受注機会を拡大します

公契約基本条例に基づき、公共工事・サービスの市内中小企業への発注をさらに進めるとともに、公契約に従事する労働者の適正な労働環境を確保します。

また、地域貢献、子育て支援、女性の活躍などに理解のある中小企業を応援します。

オール京都で、正規雇用の拡大と 雇用の質の向上に取り組みます

京都の強みである文化、観光、産業、大学等の融合により、経済を活性化し、安定した雇用の創出します。

京都市、府、経済団体、労働団体、大学、関係機関等により、子どもの頃からの職業観醸成の充実など、オール京都での人づくりとともに、正規雇用拡大と雇用の質の向上を進めます。

女性、若者、ご高齢者などの雇用拡大や、障害のあるひとやひきこもりの若者等の就労支援、ワーキングプア対策などに取り組みます。



「ブラック企業・ブラックバイト」の根絶に向けて取り組みます

アルバイトや就職先で賃金不払い残業などを行わせる、いわゆる「ブラック企業・ブラックバイト」の根絶に向け、国の監督・指導の徹底と連携した周知・啓発を進めます。

環境、医療・福祉、マンガ・アニメ・映画など、京都が強みを持つ成長分野の市場拡大を実現します

環境・エネルギー(グリーン)、医療・健康・福祉(ライフサイエンス)、マンガ・アニメ・ゲーム・映画(コンテンツ)など、京都が強みを持つ成長分野で、産・学・公・地域が連携して研究開発や事業化を行い、市場の拡大を図ります。

ベンチャー企業、知恵産業の創出・育成・成長を支援します

「ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定」「オスカー認定」「知恵創出“目の輝き”認定」など、京都の優れた企業の認定制度により、ベンチャー企業、知恵産業企業の発掘から育成・支援まで一貫したサポートを強力に進めます。

新たな産業用地の確保・創出など、地元企業の事業拡大や企業誘致を進めます

未活用の工業用地等により新たな産業用地を確保・創出するなど、企業の市外流出防止と、市外・海外企業の誘致を一層進めます。

**社会的課題の解決に挑戦するひとや企業等を育成！
ソーシャルビジネスの創造・集積都市・京都をめざします**

福祉、環境、農林業振興、国際交流などの社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネスによって、ひとを育て、社会に望ましい変革をもたらす「ソーシャル・イノベーション」。これに挑戦する市民、企業、NPO、大学等を、ソーシャル・イノベーション研究所を核に、産業界、大学、金融機関等と連携して支援します。

伝統産業ふれあい館の機能の抜本的強化など、京都が誇る伝統産業製品の販路拡大を進めます

伝統産業ふれあい館について、普及・啓発に加え、需要拡大と販売促進の機能を強化します。

観光客が、伝統産業製品の工房を訪問し、魅力に直接触れる機会をつくるなど、販路拡大、観光客のリピーター獲得を促進します。

伝統産業製品の職人の方の情報やものづくりへの思いを、消費者に伝える生産履歴確認(トレーサビリティ)の仕組みを、業界と連携して開発します。

京都館(東京)の移転を機に、伝統産業品や文化・観光PRを充実し、国内外に向けた京都の魅力発信を強化します。

伝統産業従事者の雇用を創出し、後継者育成を支援します。



人々の会話、ぬくもり、活気に満ちた商店街づくりと、地域の魅力向上に取り組みます

商店街の空き店舗の流通の促進、事業者と地域住民等が交流する機会づくり、専門家による各商店街の分析に基づく支援などにより、商店街の活性化や加入促進、地域の魅力向上を図ります。



6次産業化への支援や、農家住宅の宿泊施設への活用促進など、農林業を活性化します

京北、広河原、嵯原等の地域で進められている、地域資源を活用した加工や販売を行う6次産業化。その支援を行う地区の拡大など、農林業振興を図ります。

農家住宅の宿泊施設への活用促進や、市民や観光客が、農山村に滞在して収穫などの作業に触れる機会の創出等により、農山村地域の魅力を発信し、農林業を活性化します。



日常をいろどる花のある暮らしを支える、花関連産業を振興します

業界団体と連携し、生産・流通・消費における現状と課題を調査・分析して、効果的な振興策を実施。京都のいけばな文化とも連携し、日常に華やぎと潤いをもたらす花のある暮らしを支えます。

**食の安全・安心を支え、世界に誇る食文化の拠点として中央卸売市場を整備！
京の食文化を創造・発信します**

安全・安心な食の流通機能を高め、京都の食文化の拠点とするため、中央卸売市場(第一市場)の水産棟・青果棟の再整備と、食肉市場(第二市場)の改築を、市場関係者と共に進めます。

第一市場の整備に合わせて、新たな賑わいを生み出し、地域を活性化します。

市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実

福祉と医療を充実し、 安心・安全、 「世界一健康長寿のまち・京都」 をつくります。



ご高齢者や障害のあるひと、弱い立場のひとをはじめ誰もが住みなれた地域で、互いを思いやり、いきいきと健やかに生活できるよう、介護・保健医療の体制の充実や生きがいづくり、ユニバーサルデザインの推進を図るとともに、京都ならではの市民力・地域力を活かし、市民の皆様が、いつまでも健康で自立した日常生活を送ることができるよう、「健康寿命」の延伸に取り組みます。

主な実績

- ◆ 高齢者入所施設の大幅拡充(11,414人分の定員確保)、一人暮らし高齢者(約7万5千人)の全戸訪問
- ◆ 京都市立病院の新館開院、心臓・血管病センター、脳卒中センター運営開始、救急患者受入数は1.7倍、手術件数は1.3倍へ
- ◆ 国民健康保険料の引下げ:すべての保険料率(平等割、均等割、所得割)を引き下げ(制度創設以来初)
- ◆ 「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」:京都府警と協定を締結、市民ぐるみの取組で犯罪件数はピーク時から半減以下に(26年:19,146件)

主な施策

「世界一健康長寿のまち・京都」を、 市民ぐるみの運動で実現します

市民の健康寿命を平均寿命に近づけ、年齢を重ねても一人一人の命が輝き、活躍できる、活力ある地域社会をめざし、市民参加のもとにわかりやすい目標を設定するなど、幅広い市民団体や企業等による市民ぐるみ運動を展開します。

より使いやすく持続可能な 敬老乗車証制度を構築します

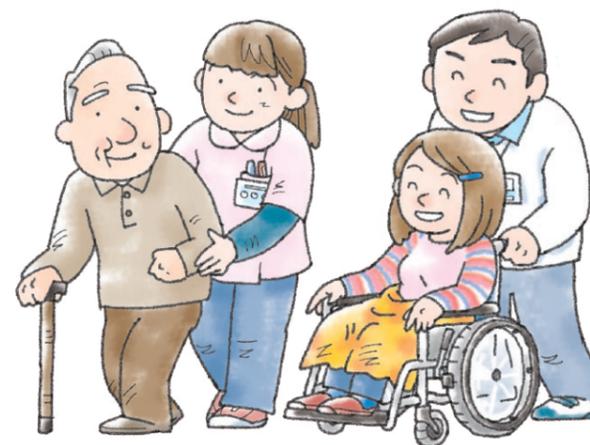
「敬老乗車証制度の今後の在り方」についての審議会の議論や市民意見を踏まえ、さらなる使いやすさと持続性を両立する制度を検討し、構築します。

がん検診の受診率向上など、 市民の健康づくりを進めます

一定年齢の方への、がん検診無料クーポンの配布等の取組を進め、がん検診の受診率向上を図るなど、市民が健康づくりに取り組む環境を整備します。

安心・安全に暮らせる 介護基盤の整備を進めます

特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・認知症高齢者グループホームの定員1,400人分以上の整備を、平成29年度までに推進。地域に根ざした介護サービス基盤の整備とともに、介護を支える担い手の育成、確保を支援します。介護保険制度の改正を踏まえ、必要な方に必要なサービスが提供できるよう取組を進めます。



住み慣れた地域で生活できる 地域包括ケアを進めます

ご高齢者が住み慣れた地域で、医療・介護・生活支援などの支援サービスを総合的に切れ目なく受けられる京都市版地域包括ケアを進めます。

“地域で気づき・つなぎ・支える” 認知症サポート医やサポーターを充実し、 認知症のひとと家族を支えます

かかりつけ医への助言や支援を行い、専門医療機関等との連携の推進役「認知症サポート医」を増員。認知症のひとと家族を支援する「認知症サポーター」を平成29年度までに80,000人に増やすための養成と制度周知を進めます。

ご高齢者の知恵や活力は京都の宝物！ 地域活動等で力を発揮いただく 仕組みをつくります

地域の介護要望や日常の困りごとの解決など、活動を求める団体と、活動を希望されるご高齢者等とのマッチングを実施。ひとが支えあう地域文化の継承などに、ご高齢者にご活躍いただく仕組みをつくります。

障害のあるひとが安心して暮らせる 24時間・365日相談体制を確立します

障害者地域生活支援センター等での土日祝日等開所や、深夜・早朝の相談受付専用電話の設置を行います。

地域リハビリテーション推進センター、 こころの健康増進センター及び 児童福祉センターの施設を一体化します

市衛生環境研究所等の跡地(中京区壬生)に、地域リハビリテーション推進センター、こころの健康増進センター、児童福祉センターを一体的に整備し、充実します。

児童福祉センターの機能を強化し、児童虐待等の相談の増加に対応するとともに、自閉症など、子どもの発達を心配する親の不安に対応して専門家が助言・指導する取組を充実します。

主な施策

「地域あんしん支援員」を増員し、地域で支援の必要なひとに寄り添い、働きかけ、支援する体制を充実します

支援が必要にもかかわらず、本人が受け入れないなど、支援につがっていないひとに対し、寄り添いながら、地域や関係機関と連携し、支援につなげる「地域あんしん支援員」を増員します。

ハローワークの就労支援コーナーの設置をすべての区に拡大し、生活保護受給者等の自立・就労支援をさらに進めます

毎年1,000人を超える生活保護受給者が新たに就労し、16年ぶりに生活保護率が減少するなど成果を挙げた自立支援。さらに進めるため、全福祉事務所へのハローワークの就労支援コーナーの設置や必要な制度改革を、国と連携して促進します。

国民健康保険料、介護保険料の負担を軽減します

国に抜本的な制度改革を強く求め、市独自の財政支援の継続と、医療費適正化等により、国民健康保険料の負担を軽減します。

介護保険料についても、きめ細かな所得段階設定など、市独自に低所得者の負担増の軽減に努めます。

食品事業者とともに衛生管理を推進し、食の安全・安心を徹底します

食品事業者の自主的な衛生管理を推進する市独自の「京・食の安全衛生管理認証制度」のさらなる活用などにより、食の安全・安心を徹底します。

ひとと動物が共生するまち・日本一に向け、「動物愛ランド」で保護した犬猫の譲渡・返還100%をめざします

動物愛護センター「動物愛ランド」を拠点に、動物愛護団体や市民ボランティアと連携し、市民ぐるみでマナー向上や犬猫の譲渡・返還を進めます。

犯罪件数をピーク時の3分の1以下に！「世界一安心安全・市民ぐるみ推進運動」を進めます

市民、京都市、警察等が一体となって、市民ぐるみ運動を全区で展開し、犯罪件数を、ピーク時の約4万2千件から平成32年までに1万5千件以下に減らします。

交通安全基本条例に基づき、交通事故防止の啓発を行い、交通事故のない安心で快適な市民生活を実現します。

また、近年増加しているDV被害者への相談、自立支援体制の充実に努めます。

増加する救急需要に応え、市民のいのちを守るため、救急体制を強化します

救急隊を増隊し、救急現場への到着時間が政令市一早い救急体制を、さらに強化します。

「全国で最も火災発生率の低いまち」の実績を維持し、地域ぐるみで放火防止対策を進めます

火災原因の1位を占める放火火災について、消防団員、市民と一体となって、放火防止対策を進めます。

駅などのバリアフリー化の拡大をはじめ、ユニバーサルデザインを推進します

公共交通で安心・安全、円滑に移動できるよう、これまで進めてきた、駅とその周辺道路の段差解消などのバリアフリー化。西大路駅でも新たに取り組むなど、障害の有無等にかかわらず、すべてのひとが暮らしやすい社会環境づくりをめざすユニバーサルデザインを推進します。

2

3

市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実

教育、保育などの充実で「子育て・教育環境日本一」をめざします。



子ども医療費のさらなる負担軽減や「保育所待機児童ゼロ」の継続をはじめ多様な保育ニーズへの的確な対応等の子育て支援、家庭環境や障害の有無に左右されることなくすべての子どもの可能性を最大限に伸ばす教育環境の充実を、地域・保護者・学校等の連携のもとに進めます。

伝統と文化を学び、家族の絆を大切に、地域ぐるみで子育て・教育を高め合い、子育ての喜びを実感できるまち、若者が夢と希望を持ち、幸せを実感できるまちを実現します。そのために市役所の組織体制を改革します。

女性のさらなる活躍と、男女が協力して仕事と家庭生活、社会貢献・地域貢献を調和させることにより、心豊かな人生を送ることができる「真のワーク・ライフ・バランス」を推進します。

主な実績

- ◆ 保育所の新設・増改築など、7年間で入所児童数を約3,500人拡大、3人目以降の保育料無料化、国基準を上回る保育士の配置基準などにより、2年連続で保育所待機児童ゼロ達成
- ◆ 子ども医療費支給制度の対象年齢拡大(小学校就学前→中学校3年生)
- ◆ 地域・PTAが学校運営に参画する開かれた学校づくり、230校に学校運営協議会を設置(政令市初の全小学校設置)
- ◆ すべての小中高総合支援学校にスクールカウンセラーを配置

**「保育所待機児童ゼロ」を継続！
さらに、多様な保育サービスを充実します**

2年連続で達成した待機児童ゼロ継続のため、保育所新増設、幼稚園の預り保育充実、小規模保育設置などにより、入所定数を拡充します。また、市独自の保育士加配をさらに充実します。

一時保育、延長保育、休日保育、病児保育を拡充します。



**大学等との連携により、
保育士を確保します**

保育士資格を取得できる大学等が多い京都の強みを生かし、大学等と連携した保育士の確保や、保育経験者の復職促進等を図ります。

**子どもの医療費の負担軽減を
さらに拡充します**

市独自の子ども医療費助成制度を、府市協調によりさらに充実させます。

子どもの医療費に係る恒久的な補助制度創設を国に強く求めます。

**「学童クラブ待機児童ゼロ」を継続！
子どもたちの放課後の居場所と
豊かな学びを保障します**

学童クラブ待機児童ゼロ継続とともに、重度障害児の放課後の居場所づくりを進めます。



**家庭での読み聞かせのきっかけづくり、
すべての親子に「初めての絵本」を贈る
「京都版ブックスタート」を始めます**

親子で本に親しむきっかけづくりのため、絵本と、読み聞かせの意義を啓発する冊子を贈る制度を始めます。

**不妊治療のさらなる負担軽減など、
妊娠前から出産・育児まで
切れ目なく支援します**

不妊で子どもに恵まれず、悩んでおられるご夫婦の希望が実現するよう、不妊治療助成をさらに拡充します。

「子育て世代包括支援センター」である各区の保健センターで、妊娠前から出産・育児期まで切れ目なく支援します。

**「子どもはぐくみ局(仮称)」を創設、さらに
「子育て支援コンシェルジュ」を創設し、
子育て等に関する支援・対策を推進！
子育ての楽しさをみんなで共有できる
まちづくりを進めます**

子ども、青少年、家庭教育等に関する施策を融合し、少子化対策、子どもや子育てに関する業務を総合的に担う局組織を創設します。

「子育て支援コンシェルジュ」を創設し、お一人お一人の子育てに関する相談に総合的に対応します。

子どもや青少年の貧困問題の解決をめざし、子ども・青少年経済困窮対策プロジェクトチームを設置し、支援します。

**子どもたちに、京都ならではの
すまいや暮らしの文化を継承するための
学びの機会をつくります**

子どもたちに、京都ならではのすまいや暮らし方など、現代の生活にも通用する知恵を継承するための学びの機会(「住教育」)をつくります。

また、家族の絆や地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちが健やかに育つすまい方を促進する取組(「住育」)を進めます。

**子育て世帯・若年層世帯への
住宅支援を実施します**

子育て世帯・若年層世帯向けに、市営住宅等の空き家を改修し、入居を促進するほか、民間賃貸住宅の改修費用を助成します。

**PTAや地域と共に全国に誇る
京都ならではの開かれた学校づくりを
一層進めます**

地域に根ざした市民ぐるみの教育のための「学校運営協議会」の設置拡大、「みやこ子ども土曜塾」、学校給食の子どもの発達段階に即した充実、校区の状況に応じた全中学校区での小中一貫教育、障害のある児童・生徒の教育の充実などを進めます。また、体育館の防災機能向上や学校トイレ洋式化など快適トイレの拡充等を推進します。

京都工学院高校の開校、新たな定時制単独高校や塔南高校の移転・再編による新たな普通科系高校、向島小中一貫校の創設などを進めます。

体力向上のため、全小学校での運動部活動の一層の充実、京都ならではのスポーツ少年団活動充実への支援等に努めます。また、子どもたちのまちの美化活動など地域行事への参加や、学校でのクラス名簿が共有できるよう支援するなど、人と人の絆を学ぶ絆教育を進めます。

**放課後にも学習機会を設けるなど、
すべての子どもに学習習慣を定着させ、
学力保障に取り組みます**

学習習慣を定着させ、基礎学力をつけるため、独自に開発した「小中一貫学習支援プログラム」の実施回数を拡大。また、放課後等の学習機会を提供する「未来スタディ・サポート教室」を全中学校区で実施します。

**スクールカウンセラーの相談体制を拡充し、
スクールソーシャルワーカーを
全中学校区に配置します**

不登校の未然防止、不登校の子どもへの支援、課題を抱える家庭や子どもの支援充実のため、全校へ配置しているスクールカウンセラーの相談体制を拡充。また、福祉・医療・警察等と連携し、貧困など多様な課題に対応するスクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置拡大します。

**子どもたちが、芸術家や職人、地域の方から
「伝統文化や伝統産業のほんものの魅力」
を学ぶ機会を充実します**

学校教育などの場で、子どもたちが、文化活動をされている地域の方々や芸術家、伝統産業の職人等を通じ、茶道、華道や、きもの、京料理、京菓子などの文化に触れる機会づくりや、伝統と文化を重視した教材の使用等により、学びを充実します。

また、小学生対象の「ジュニア京都検定」や、中学・高校生対象の「京都検定3級」チャレンジ事業を進めます。

**家庭でのしつけや学校での道徳教育の
充実等により、いじめを許さない心など、
子どもの規範意識を育みます**

子どもの規範意識や自己有用感を育むとともに、子どもが安心して生活し、学べる環境を実現します。PTA、おやじの会をはじめ、地域、関係団体、学校、行政が一体となって、家庭での家族の絆の深まりやしつけ実践の支援、学校での道徳教育充実、生徒会活動活性化などに取り組みます。

**青少年活動センターや
若者サポートステーションの取組を進め、
青少年の自立を支援します**

青少年活動センターを拠点に、ボランティア活動、地域活動等の世代間交流や地域コミュニティへの積極的な参画を促進します。

ニート、フリーターなど、若者に対し、キャリアやこころの相談、就労体験等を行う京都若者サポートステーションの取組を進めます。

さらなる青少年の自立支援強化に向け、条例の制定も含めて検討します。

**大学生が全国の中高生に京都の魅力をPR！
「大学のまち京都・学生のまち京都」の
魅力を高め、全国に発信します**

大学の誘致や施設拡充等の支援を進めます。
学生が地域と共にまちづくりに取り組んだり、企業と協働して企業の課題解決に挑む取組により、学生の学びと、地域や商店街、中小企業の活性化等につなげます。また、京都学生祭典をはじめ学生の主体的活動を支援します。
京都の大学生の協力のもと、全国の中高生に、ウェブサイト等で「大学のまち京都の魅力」を発信する取組を充実します。

**「外国人留学生1万5千人の誘致」と
「日本の大学生の海外留学」を支援！
大学の国際化を進めます**

留学生支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」を核に、留学生寮の充実のほか、生活習慣等の多様性に対応した受入環境整備や就職支援を実施。また、各大学が行う留学生誘致や海外大学との連携を市独自で支援。これらにより、市内留学生を7,000人（現在）から平成32年度までに15,000人に倍増させます。
海外留学する学生が、日本・京都の魅力を英語で伝えられるよう、歴史・伝統を学ぶ講座を開設。修了者を「京都PR学生大使」に任命します。



**市民と共に学び、創造し、発信！
奥深い京都の魅力を研究する「京都学」を
国内外に広めます**

京都の歴史的価値や、市民が大切にしてきた京都の暮らし等を研究する「京都学」が、市内の各大学で展開される中、各大学と連携してその発展を支援し、国内外に発信します。

**「京都・輝く女性大賞」を創設！
オール京都で女性を応援します**

経済団体や府、国等とともに立ち上げた「輝く女性応援京都会議」を核に、女性が希望をもっていきいきと働き、活躍できる環境づくりを進めます。
また、様々な場で輝く女性を顕彰する制度をオール京都で創設します。

**男性の育児休業取得奨励金制度の創設など、
「真のワーク・ライフ・バランス」の
定着を図ります**

「真のワーク・ライフ・バランスの日」の設定や、子育て・介護を理由とする離職をなくす取組を強化します。
企業・事業者向けの、男性の育児休業取得奨励金制度創設や、家事・育児等に積極的な男性の顕彰などにより、中小企業等の実情も踏まえつつ、まち全体が子育ての喜びに満ちた社会の実現をめざします。

**図書館の充実とともに、
駅などで返却等ができるようになるなど、
図書館の利便性を向上させます**

図書館の充実とともに、駅など市民に身近な場所で返却等ができるシステムの構築など、図書館の利便性を向上させます。

2
4

市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実

**「災害に強いまちづくり」で
市民のいのちと暮らしを
守ります。**



災害時に都市機能を確保するための橋りょうの耐震補強や、住宅の耐震改修、細街路・密集市街地の安全対策、集中豪雨の被害を最小化するための河川整備や雨水幹線整備等による「雨に強いまちづくり」、原子力防災対策の推進など、防災力の向上に取り組めます。

主な実績

- ◆ 市内約2,900橋すべての点検完了、うち51橋の耐震補強等に着手
- ◆ まちの匠の知恵を活かした京都型耐震リフォーム支援の推進、地域の仕事起こしにも貢献
- ◆ 全避難所(421箇所)で大規模災害時の避難所運営マニュアル策定
- ◆ 西日本初の消防ヘリコプター24時間365日運航実現

**密集市街地・細街路など、
歴史都市京都の特性を踏まえた
安心・安全なまちづくりを進めます**

災害時に避難や救助に支障をきたすおそれのある密集市街地や細街路について、耐震・防火改修費用の助成など全国に例のない京都独自の対策を進め、防災力向上を図ります。

**まちの匠の知恵を活かす
京都型耐震リフォーム制度で、
住宅耐震化を加速します**

大工、左官、板金、金物屋、瓦屋、建築士など、地域に根差す「まちの匠」と呼ばれる職人の方々の知恵を結集し、簡単な手続きで、工事費用の一部を助成する木造住宅の耐震改修を進め、職人の方々の仕事起こしにつなげます。耐震改修、省エネ改修、創エネの連動を一層進めるとともに、「まちの匠」と地域が連携し住宅耐震化の啓発に取り組む学区を支援します。

**民間保育所など社会福祉施設の
耐震化を進めます**

利用者の安心・安全確保のため、民間保育所など社会福祉施設の耐震化を進めます。

**緊急時に市民の大切ないのちを守る、
橋りょうの耐震補強を進めます**

緊急輸送道路上の橋りょうなどの整備を加速する「いのちを守る橋りょう健全化プログラム」に基づき、第1期に続き、22橋の耐震補強と29橋の老朽化修繕を5年以内に完了させます。

**水道管の耐震管への布設替えなど
災害に強い上下水道施設の
整備を進めます**

水道管の耐震管への布設替えやバックアップ機能を強化し、水道システム全体の耐震性を向上させ、被災時の早期復旧が可能な上水道を構築します。

下水道施設の被災時の処理機能確保のため、布設替えや重要施設の耐震補強を進めます。

**10年に一度の大雨に備える
下水道の雨水幹線整備や、
河川改修を進めます**

大雨等による浸水被害から市民の命と財産を守るため、下水道の雨水幹線整備や市管理河川(340河川)の改修等を着実に進めます。とりわけ今後被害が想定される河川の改修等を早急に進めるとともに、国・府の管理河川(40河川)の改修についても、国・府に要望し、連携して進めます。



**水災害に備える防災マップを
最新情報に改訂し、全戸配布します**

大雨や台風の際に浸水や土砂災害の被害のおそれがある区域を示す「防災マップ」の全面改訂、全戸配布を行い、ホームページでお知らせします。

**ご高齢者や障害のある方などへの
避難情報伝達を充実します**

災害時に、避難情報をメールで受信できないご高齢者や障害のある方に対し、固定電話やファックスで避難情報を配信する地域を全市に拡大します。

**地域住民の方々による
避難所運営訓練を進めます**

全避難所(421箇所)で策定した避難所運営マニュアルに基づく訓練を、すべての避難所で進めます。また、各種団体との災害協定締結をさらに進めるとともに、周知と訓練に取り組めます。

災害時に飼い主とペットと一緒に避難できるよう、避難所受入体制を強化します。

**新たな力で消防団を活性化！
若者や女性の加入を進めます**

若手消防団員による「消防団充実強化実行チーム」の活動支援など、若者・学生や女性の消防団加入を進めます。

**自主防災会(学区)単位での
防災行動マニュアルの策定・実践を
支援します**

自主防災会による、地震や水災害、土砂災害に備えた防災行動マニュアル策定を支援します。

**幼少年期から防災意識を高める、
京都市独自の防災教育を実施します**

幼少年の年代に応じた、きめ細やかな防災カリキュラムを策定し、防災教育を充実させ、防災意識を高めます。

**万一の原子力災害に備えるための
対策を進めます**

国基準の原子力発電所から概ね30km圏内を中心とした原子力防災訓練の実施や、モニタリング体制の整備等に取り組めます。

**防災都市・京都の災害対策拠点、
市庁舎の整備を進めます**

高い耐震性を備え、災害対策の中心となり、市民のいのちを守る拠点となる市庁舎の整備を進めます。



日本の“こころの創生”を牽引し、“世界の文化首都・京都”を実現

市民ぐるみで

「環境にやさしい循環型社会」を構築します。



市民力・地域力を結集し、地球環境にやさしいまちづくりを推進するとともに、木の文化を大切にし、ごみを減らし、併せてリサイクルを進める、循環型社会を構築します。

原発に依存しない持続可能な社会の早期実現に向け、産学公連携のもと、太陽光発電、バイオなど再生可能エネルギーの導入拡大・技術革新や地産地消、省エネを積極的に推進します。

主な実績

- ◆ ごみ量の大幅削減：ピーク時から43%削減、年間46万トンに、ごみ処理コストは年間106億円減
- ◆ ごみ焼却施設を5施設から3施設に削減（1施設当たり整備費400億円、年間運営費10億円削減）
- ◆ 再生可能エネルギー政策を推進：ごみからエタノールを製造する都市油田発掘プロジェクト、太陽光発電助成等
- ◆ 地域ぐるみで主体的なエコ活動を実践する「エコ学区」の全学区（222学区）拡大、地域に根ざした実践の広がり

主な施策

ピーク時からの「ごみ半減以下」を実現します

本市唯一の埋立処分地をできるだけ長く使うため、ごみ発生抑制・再使用と、分別・リサイクルを徹底し、3工場あるクリーンセンターが大規模改修時の2工場体制でもごみを処理できるよう、ごみの市受入量をピーク時（平成12年度）の82万トンから、平成32年度までに半分以上の39万トンに削減します。



政令市初となる、レジ袋有料化のすべての食品スーパーへの拡大により、レジ袋削減を進めます

マイバッグの利用促進、レジ袋有料化等により、ごみの発生抑制を加速します。

ピーク時からの「食品ロス(手付かず食品や食べ残し)半減」を実現します

生ごみ3キリ(使いキリ、食べキリ、水キリ)運動や、食べ残しゼロ推進店舗の拡大などを強力に進めます。ごみの市受入量の1割を超える手付かず食品や食べ残しなどの「食品ロス」を、ピーク時（平成12年度）の9.6万トンから、平成32年度までに5万トンまで削減します。

エネルギー消費量を15%以上削減し、再生可能エネルギーを3倍以上にします

エネルギー消費量を、平成32年度までに平成22年度から15%以上削減し、再生可能エネルギー全体を3倍以上にする目標に向け、太陽光発電の家庭への導入支援など、市民、地域、事業者と一体となって取り組みます。

京都市が会長を務める「指定都市自然エネルギー協議会」において、再生可能エネルギーの普及拡大等に向けた国への政策提言や、電力事業者に対する要請を強力に進め、原発に依存しない持続可能なエネルギー社会の実現をめざします。

京都議定書からパリ協定につながった気候変動に立ち向かう世界の絆！オール京都でさらなる挑戦を進めます

低炭素・循環型社会実現に向け、京都議定書発祥の地として、アジアの自治体とも連携し、環境関係団体の力を結集して、オール京都で取り組みます。

京都ならではの地域力で環境にやさしい取組を進める「エコ学区」活動や、環境教育を進めます

地域ぐるみで環境にやさしいライフスタイルへの転換に向け、学区単位で取り組む「エコ学区」（今年度中に全学区で実施）の活動を継続・充実します。

また、幼少年期からの環境教育等を進めます。

将来のエネルギーとして期待！水素エネルギーの普及拡大を進めます

燃料電池自動車（FCV）の普及啓発や、水素ステーション誘致、家庭用燃料電池（エネファーム）設置助成などに取り組み、水素エネルギーの普及拡大を図ります。

製造過程で二酸化炭素を排出せずに生産されたエネルギーが、市内を走行する車両等で地産地消される「CO₂フリー」の環境先進都市をめざします。

主な施策

間伐材や生ごみの活用など、 バイオマスエネルギーの 活用を進めます

森林資源や廃棄物等のバイオマスを活用した産業を振興し、環境にやさしく、かつ災害に強いまちづくりをめざす「バイオマス産業都市構想」を策定します。

間伐材等を使う「木質バイオマス発電」や、生ごみと紙ごみからエタノールを取り出す「都市油田発掘プロジェクト」などの取組を進めます。

エネルギーマネジメントシステム (EMS)を活用した 省エネを進めます

家庭や事務所などのムダな電気や熱を「見える化」し、空調や照明の使い方を見直し、ムダをなくすシステムを普及拡大させ、省エネを一層進めます。

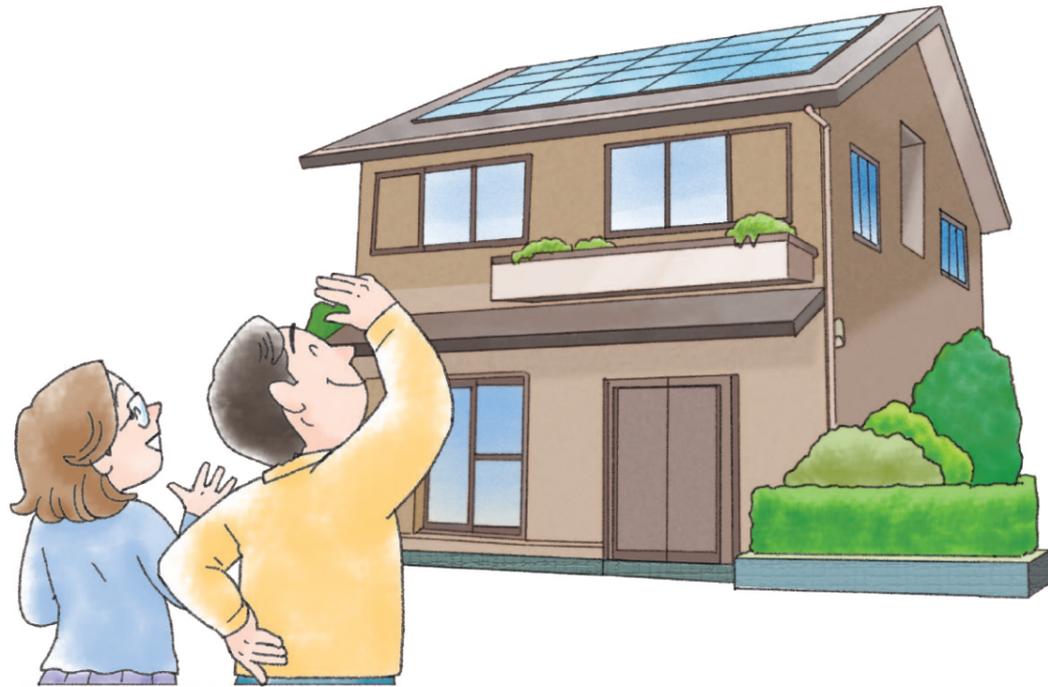
リユース食器の導入などイベント等の エコ化を進めます

イベントや地域に根差した祭り等で、分別排出の徹底、公共交通機関の利用促進など、エコ化をさらに進めます。

森林資源の活用とともに、 森林保全と林業の将来にわたる 継続・振興をめざす 新たな仕組みづくりに取り組みます

製材加工施設への支援、市施設への市内産木材利用量の倍増、住宅リフォーム等に対する市内産木材の利用助成など、“川上から川下まで”一貫した森林資源活用策を充実します。

併せて、森林保全と、林業の将来にわたる継続・振興を目的とする、より効果的な新しい仕組みづくりに向け、市・府で連携し、国にも提案しながら、地域と協働して取り組みます。



3

日本の“こころの創生”を牽引し、“世界の文化首都・京都”を実現

6

「文化芸術都市」、「スポーツ都市」、 観光・MICE推進で 「世界があこがれる観光都市」を 実現します。



東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスタースゲームズ 2021 の開催を機に、京都の文化芸術の振興と国内外への発信に取り組み、都市格を高め、市民の誇りにもつなげる「文化芸術都市」と、スポーツが生活に根付き、市民が健康で地域がいいきとした笑顔にあふれる「スポーツ都市」をめざします。

「京都に住んでいてよかった」と市民が実感できるまちを実現し、観光客も魅了するやさしさと笑顔があふれるまちづくりを進めます。

観光・産業・文化を融合させ、京都経済を活性化し、市民の豊かさにつなげます。

主な実績

- ◆ ロームシアター京都、動物園、美術館の再整備を推進、文化の拠点整備に注力
- ◆ 16,000人が都大路を駆け抜ける京都マラソン開催、ハンナリーズアリーナの大規模改修実施
- ◆ 観光客数5,564万人、観光消費額7,626億円、外国人宿泊客数183万人、すべて過去最高を記録(26年調査)、海外の権威ある旅行誌で2年連続世界1位を獲得、京都の活性化につなぐ

**東京と京都が都の機能を双方で果たす、
「双京構想」の実現をめざします**

日本の大切な皇室の弥栄のために、東京の皇居以外に唯一現役の御所がある京都にも、皇室の方にお住まいいただくなど、東京と京都が都の機能を双方で果たす「双京構想」の実現をめざします。

文化庁等の京都移転の実現をめざします

わが国全体の課題である東京一極集中の是正と、日本の文化の振興のため、文化庁等の京都移転に、オール京都で取り組みます。

**東京オリンピック・パラリンピック、
世界博物館大会(ICOM2019)等に向け、
日本文化を発信する文化祭典など
多彩な事業を展開し、
観光客受入環境を整備します**

オール京都で「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」、「京都文化フェア(仮称)2016-2020」など多彩な取組を展開し、日本文化の魅力の発信と、京都の文化力や都市格の一層の向上をめざします。

ユニバーサルツーリズムの充実や観光案内所のネットワーク化、観光バスの受入対策、外国人観光客のマナー対策、観光業の担い手育成、子どもの英語教育充実など、観光客の受入環境整備と市民の文化の向上、暮らしやすさを併せて実現します。また、スポーツツーリズム振興に取り組みます。

**世界の文化首都・京都にふさわしい、
新生・京都市美術館を整備します**

昭和天皇即位の大礼を記念して開設した歴史を踏まえ、文化芸術都市・京都のシンボルとなる美術館をめざします。

**まちなかを「音楽の舞台」に！
音楽文化創造都市・京都の実現を
めざします**

京都市交響楽団の「まちかどコンサート」をはじめ、市立芸術大学や合唱団などと共に、岡崎地域などまちなかを舞台に、多彩で魅力的な音楽事業を展開します。

**ユネスコ創造都市ネットワークへ加盟し、
京都のまちの創造性や魅力に
磨きをかけます**

文化芸術、生活文化、産業、まちづくりなどにおいてデザインの創造性に優れた、世界の中でも特色ある都市が、交流・連携し、経験や知識の共有を図る「ユネスコ創造都市ネットワーク」への加盟に取り組みます。



**国立京都国際会館の多目的ホールの
5,000人規模の拡充整備に向け、
取り組みます**

2,500人規模で整備中の国立京都国際会館・多目的ホールについて、5,000人規模へのさらなる拡充整備の早期実現を、国に対し強く要望します。

また、ホールの内装や調度品に、京都の伝統工芸品等を活用し、「京都らしい設え」とすることで、日本文化の発信と伝統産業振興を図ります。

**市観光協会をはじめ観光団体と
行政が一体で観光・MICE推進！
新たな組織「京都市版DMO」を構築します**

市の観光団体と行政が一体となり、さらなる観光・MICE推進に取り組む組織を構築。観光データの分析に基づく効果的な戦略作成や、民間の力を生かしたプロモーション等に取り組みます。

**地域にも観光客にも、安心・安全な、
京都にふさわしい宿泊環境を充実！
インバウンドで経済を活性化します**

宿泊施設の不足解消に向け、旅館のさらなる利用促進、京町家や農家住宅などの魅力を活かした施設の活用等、京都にふさわしい宿泊施設の増加に取り組みます。

法令等に違反する民泊サービスは厳しく指導し、適正化します。



**朝観光、夜観光、温泉など、
京都の新たな魅力を発信します**

朝や夜の観光メニュー充実や、温泉のPRなど、新たな地域の観光資源の掘り起こしや創出、観光客の滞在の長期化を進めます。

地域の隠れた歴史的な遺産・魅力等を紹介する、京都産木材を使った新たな駒札の設置を進めます。

**横大路運動公園の野球場整備など、
誰もがスポーツに親しむことができる
環境づくりを進めます**

宝ヶ池への体育館整備、西京極総合運動公園の計画的改修と横大路運動公園の野球場整備・防災機能強化、水垂運動公園整備構想の推進などに取り組みます。

また、競技スポーツや生涯スポーツをさらに振興します。

**姉妹都市・パートナーシティとの
国際交流を進め、世界平和に貢献します**

姉妹都市・パートナーシティ交流や世界歴史都市会議などを通じ、世界文化自由都市を理念とする京都の文化を世界に向けて発信。交流人口増加につなげ、世界平和や人権、環境、文化・産業の発展など国際社会に積極的に貢献します。

日本の“こころの創生”を牽引し、“世界の文化首都・京都”を実現

京都の自然や歴史・文化遺産など

「歴史力・地域力を活かしたまちづくり」を進めます。



京都が誇る山紫水明の自然景観や風情豊かな歴史的な町並み景観を保全し、次世代にしっかりと継承します。

世界遺産をはじめとする歴史的な建造物や庭園、伝統行事やくらしの文化など、それぞれの地域が育んできた歴史・文化・産業遺産の未来への継承と創造的な活用、空き家の活用を推進し、まちなかと周辺部が、それぞれの地域特性を活かした魅力あふれる地域まちづくりを市民との協働で進めます。

主な実績

- ◆ 「京の食文化」「花街の文化」「地藏盆」を市独自の無形文化遺産に選定
- ◆ 全国に類を見ない新景観政策の推進による都市格向上(建物の高さ・デザイン規制・屋外広告物適正化等)
- ◆ 町並み景観の保全(京町家の保全・再生、歴史的建造物の修理、無電柱化、石畳舗装)
- ◆ 地域特性を活かしたまちづくりの推進：京都駅西部エリア活性化(JRと新駅設置を基本合意、将来構想策定)、市立芸術大学の崇仁地域(京都駅東部)への移転整備基本構想策定、岡崎地域のまちづくり(エリアマネジメント組織によるまちづくりの推進)

主な施策

歴史・文化遺産などの未来への継承と創造的な活用に取り組みます

「京都を彩る建物や庭園制度」、「京都をつなぐ無形文化遺産制度」、「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産制度」等の取組を進め、有形・無形の文化遺産などの保存・活用・継承を図ります。

和装、華道、茶道、庭園文化等の振興に努め、京都の和の文化のユネスコ無形文化遺産登録を支援します

和装、華道、庭園文化などのユネスコ登録を支援します。市民が和の文化に触れる機会をつくり、機運を高めるため、「きもの日」などと連携した和装振興とともに、学校、保育園、幼稚園など公共施設への和室設置を進め、民間の建物にも奨励します。

京町家の保全・活用を推進する条例制定など、歴史的景観資源を活かしたまちづくりを進めます

歴史的景観保全のため、寺社等の実態調査を行い、景観重要建造物の指定拡大などの保全・活用策を実施します。京町家の文化的価値やくらしの知恵を次世代に引き継ぐため、京町家の保全・活用を推進する条例を制定します。

世界遺産、歴史的建造物の周辺地域等において、景観と調和した道路整備を進めるなど、都市格向上を図ります

世界遺産、歴史的建造物の周辺地域等において、石畳風舗装等の景観に調和した道路や、歩きやすく快適な道路を整備します。

全国のモデルとなる京都方式の無電柱化を進め、道路景観を向上します

先斗町通などの景観地域において、低コスト事業手法の導入など全国のモデルとなる無電柱化事業を推進し、都市災害の防止と道路景観の向上を図ります。

京都のまちなみに調和した看板の普及を進めます

京都のまちなみに調和し、美しく品格のある看板を顕彰するなど、京都にふさわしい看板・広告物の普及と広告景観のさらなる向上をめざします。

空き家対策を地域、専門家とともに総合的に推進します

「空き家の発生予防」「活用・流通の促進」「適正管理」を柱とする総合的な空き家対策を推進し、市民の安心・安全の確保と、都市活力の維持・向上を図ります。

山間地域等の自然、歴史、魅力を活かし、活性化を図ります

豊かな自然や歴史など、地域ごとの魅力を活かし、移住・定住促進、子育て環境充実、農林業活性化や就業支援、超高速インターネット環境の整備促進など、地域、事業者、NPOなどと一体となって取り組みます。

市街化調整区域などにおいて、過疎化等の地域の課題解決に向け、自然、景観等に十分配慮しながら活性化策を検討し、実行します。

梅小路公園を中心とする京都駅西部エリアのまちづくりを進めます

水族館や鉄道博物館などと連携し、地域、事業者、NPO等との協働によりまちづくりを推進するとともに、JR新駅や中央市場などの整備を進め、新たな賑わいを創出します。

※京都駅西部エリア…北は五条通、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたエリアを中心とし、その周辺にある東寺や壬生寺等までを含めたエリア

市立芸術大学の移転を契機に、崇仁地域(京都駅東部)及び周辺地域のまちづくりを進めます

地域、事業者、NPOや市立芸大等の参画のもと、京都の玄関口にふさわしい文化・芸術によるまちの活性化に取り組みます。



**東九条地区を中心とする
京都駅東南部エリアのまちづくりを
進めます**

文化・芸術によるまちづくりなど、土地利用の方向性等を盛り込んだ活性化方針を策定し、若者の移住促進などに取り組めます。

**岡崎地域の魅力を活かした
新たなまちづくりを進めます**

官民地域連携の「京都岡崎魅力づくり推進協議会」を中心に、エリア内の回遊性向上や、MICE拠点機能の強化、さらなる集客、夜の賑わいの創出、京都ならではのスマートコミュニティ構築に取り組めます。

**西京区・洛西地域の新たな活性化のための
ビジョンを策定し、推進します**

市立芸術大学の移転後を見据え、洛西地域をはじめ西京区の新たな活性化ビジョンを策定し、推進します。

**少子高齢化、人口減少等が進む
ニュータウン(洛西・向島)を活性化します**

洛西及び向島ニュータウンについて、住環境、子育て・教育、地域コミュニティなど、総合的なまちづくりビジョンを策定し、活性化に取り組めます。

**阪急京都線の
「洛西口～桂間プロジェクト」を核に、
西京区の賑わいづくりを進めます**

阪急京都線の洛西口駅付近の高架化事業完成により、洛西口駅から桂駅の高架下に生み出される空間活用に地域、関係者と共に取り組めます。洛西ニュータウンの活性化、大原野地域ブランド戦略との相乗効果により、西京区全体の活性化につなげます。

西陣を中心とした地域の活性化を進めます

地域や関係団体等と連携し、西陣織を中心とした伝統産業、伝統文化・伝統芸能、寺社、花街の文化、商店街、観光スポットなど、多彩な歴史・文化・観光資源を活かした活性化に取り組めます。

**街路樹や公園を充実させ、緑化を推進！
山科疏水沿いの花の名所づくり・
琵琶湖疏水の魅力を発信します**

街路樹や公園を充実させ、緑化を進めます。
山科疏水沿いの東山自然緑地を四季の花木の散策路として再整備するとともに、「琵琶湖疏水通船」の実現により、歴史的産業遺産・琵琶湖疏水の魅力を発信します。

**地域のまちづくりのため、
公有地のさらなる有効活用を進めます**

学校跡地など施設の統廃合等に伴い役割を終えた土地等の有効活用を促進します。
山科の京都刑務所など市有地以外の公有地についても、移転やその跡地の活用等を含め、長期的展望に立って、地域の魅力あるまちづくりに資するあらゆる可能性を追求します。

3
8

日本の“こころの創生”を牽引し、“世界の文化首都・京都”を実現

**「安心と活力を生み出す
都市づくり」と「歩くまち京都」を
推進します。**



安心・安全な暮らしを支える生活関連道路、社会経済活動の活性化や渋滞緩和を促進する広域幹線道路をはじめ、河川や公園、上下水道等の社会資本の整備を進め、京都の新しい活力を担うまちづくりを着実に進めます。

市バス・地下鉄をはじめ民間を含めた公共交通の利便性の向上や、パークアンドライドの充実をはじめとした自動車の流入抑制策の推進、快適な歩行空間の整備・回遊性の向上などにより、魅力と活力ある、ひとと公共交通優先の「歩いて楽しいまち」を実現します。

主な実績

- ◆ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進：四条通の歩道拡幅、入洛時マイカー利用の大幅減少：41.7%（6年）→9.9%（26年）、パークアンドライドの推進（収容可能台数1,521台（19年度）→6,394台（26年度））、放置自転車対策の推進（放置自転車台数：7,896台（19年度）→390台（26年度））
- ◆JR山陰本線・京阪本線淀駅付近の複線高架化、京都高速道路新十条通、油小路線全線（直線区間、斜久世橋区間）開通
- ◆らくなん進都に京都市成長産業創造センターを開設、市内への企業立地助成100件超

**北陸新幹線の京都駅誘致など、
広域鉄道網の整備に向けて
取り組みます**

国土軸における京都の位置付けを明確にし、広域鉄道網の充実を図るため、①北陸新幹線の京都駅への誘致と早期整備実現、②リニア中央新幹線の大阪までの全線同時開業、関西国際空港へのアクセス改善及び「京都駅ルート」実現に取り組みます。

**南北方向の道路交通のボトルネックによる
渋滞の解消など、幹線道路や
生活関連道路の整備を進めるとともに、
歩いて楽しいまち・京都の取組を推進します**

経済活性化と災害に強いまちづくりを進めるため、国と協調し、幹線道路ネットワークの整備を進めるとともに、市民生活に不可欠な生活関連道路についてスマートフォン等を活用し、市民サポーターに道路等の維持管理にかかわっていただく仕組みの導入などにより、補修等に努めます。

北部山間地域の「北半環状ルート(※1)」における道路改良や待避所設置、山科から洛西を結ぶ「南半環状ルート(※2)」の整備推進、京都高速道路の抜本的見直しと南北方向のボトルネック解消などに取り組むとともに、将来的な道路のネットワークについて検討します。

歩いて楽しいまち・京都の取組を推進し、快適な歩行空間の整備・回遊性の向上を図ります。

※1 高雄から京北、花背等を経由し鞍馬に至る、国道162号や国道477号、京都広河原美山線等からなるルート
 ※2 山科から六地藏、横大路等を経由し洛西に至る、外環状線や中山石見線等からなるルート

**四条通の地下通路を活用し、
都心部のさらなる
賑わいづくりを進めます**

四条通地下通路のさらなる活用に向け、地元、商業施設、事業者等と連携しながら、文化芸術の発信や京都ならではの製品等の普及、販売など、地上・地下を含めた界わいの魅力向上とさらなる賑わいづくりに取り組みます。

**らかなん進都をはじめ、
市南部地域を中心に京都市への
企業誘致を推進します**

市南部の工業系地域等において、工場・事業所を整備する際に容積率の緩和を行うなど、企業が進出しやすい環境を整備します。

**LRT、BRTなどの実現に向けて
取り組みます**

LRT(次世代型路面電車)やBRT(高機能バスシステム)など、ひとや環境にやさしい、新しい交通網実現に向けて、地域や有識者など関係者と連携して取り組みます。



**パークアンドライド利用促進を
はじめとする自動車流入抑制策を
さらに推進します**

パークアンドライドの充実や観光地での交通規制など、さらなる自動車流入抑制策の検討を進めます。

**バス路線の充実など、交通不便地域の
公共交通維持・確保を進めます**

南太秦学区や雲ヶ畑でのモビリティマネジメントの成功事例を活かし、バス路線充実など、交通不便地における公共交通の維持・確保を地域と共に進めます。

**バス待ち環境向上、ICカードによる
定期・乗継割引サービスなど、
市バス・地下鉄の利便性を
さらに向上させます**

より便利な市バス系統・ダイヤ編成を進めるとともに、「バスの駅」やバスロケーションシステム増設など、バス待ち環境をさらに向上させます。

ICカードによる乗継割引サービス等の導入など乗継利便性等の向上、市バスの均一運賃区間の拡大や、駅の全改集札機のIC対応などを進めます。

将来の地下鉄烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置をめざし、自動運転装置搭載の新型車両の導入を進めます。

**自転車の走行環境整備や
自転車利用のマナーの徹底、
保険加入の義務化など、歩行者と自転車が
共存するまちづくりを進めます**

自転車のルール・マナーの周知徹底など、すべてのひとが安心して自転車を利用でき、歩行者も安全なまちの実現に向け、総合的に取り組みます。

**市民や観光客にとって
安心・安全で便利な
京都式レンタサイクルを確立します**

民間事業者と連携して、レンタサイクルのあり方を検討し、京都ならではの、市民や観光客にとってより安心・安全で便利な仕組みを確立します。



府市協調による「さらなる二重行政の打破」と、
真の地方分権改革をリードする自治の構築、財政構造の抜本改革

府市協調による

「さらなる二重行政の打破」と、

「財政構造の抜本改革」を

実行します。

「これまでから全国に先駆けて大きな成果を挙げてきた府市協調」を一層進化させ、オール京都で徹底して政策を融合し、二重行政を打破します。

市民生活を守り、都市の成長を支える持続可能な行財政の確立に向けて、都市の成長戦略を力強く推進し、京都経済の活性化により財源の拡充を図ります。

公営企業も含めた全会計連結の視点で、人件費総額の抑制や市債残高の縮減、民間活力の導入や事業手法の見直しによるコスト縮減などの行財政改革をさらに強力に進めます。

職員自らが率先して社会参加し、地域で京都のまちづくりに取り組むことはもとより、京都を愛し、公務に情熱と誇りをもって自ら考え行動し、市民とともに京都の明るい未来を切り拓く職員の育成を進め、組織の縦横の連携をさらに強化し、市民、議会との信頼関係のもと、より一層の公平・公正・透明な市政を推進します。

主な実績

- ◆ 府市協調で、動物愛護センター、衛生研究所などの「施設一体化」、地球温暖化対策条例などの「施策の融合」を実現
- ◆ 一般会計で5年連続黒字を確保(22~26年度)、8年間で職員数を約16,000人から約13,000人に、人件費年間335億円を削減、市の借金(実質的な市債残高)を全会計でピーク時(14年度)から約3,000億円削減
- ◆ 市バス事業: バスを40台増車し800台に、利便性のさらなる向上、26年度決算では、ピーク時に△144億円(17年度)あった累積資金不足を解消(+7億円)、自立した経営を実現
- ◆ 地下鉄事業: 5万人増客に向け5年半で4.6万人増客、現金収支を黒字化、1日当たりの赤字4,600万円(18年度)を23分の1の200万円に圧縮(26年度)、駅ナカビジネスの推進、可動式ホーム柵の設置、深夜ダイヤ改正で収支改善・安心安全・利便性を向上

主な施策

府市協調による「さらなる二重行政の打破」を推進します

市長と知事との懇談会、公開での府市協働パネルで徹底して議論・実行し、府との政策の融合、二重行政の打破をさらに進めます。動物愛護センターや衛生研究所、消防学校の一体化など全国トップレベルの成果を挙げてきた府市協調を一層進化させ、類似施設・施策の総点検を進め、市民サービス向上と行政運営効率化を徹底します。

また、観光、伝統産業の振興や安心・安全の充実等、近隣自治体をはじめ全国の自治体との都市間連携・広域連携を一層強化し、相互の発展につなげます。

福祉、子育て支援の維持・充実のため、民間の活力を活かして、委託化・民営化を推進！徹底した行財政改革断行で、市民生活を支えます

- 防災対策や未来の京都の発展に必要な投資を進めつつ、人口減少社会を迎える中、生産年齢人口(15~64歳)1人当たりの借金(実質市債残高)を減らします。
- 8年前と比べて、年間335億円削減した人件費を、職員の定数削減や給与制度等の点検、見直しで、平成31年度までの4年間でさらに100億円以上削減します。
- 行財政改革・行政の効率化を徹底し、事業見直し等で、平成31年度までの4年間で300億円以上の財源を確保します。
- ネーミングライツ等による増収や土地の有効活用等で、平成31年度までの4年間で100億円の資産運用収入を確保します。
- 入浴客への新たな負担のあり方や超過課税等の課税自主権活用を検討します。
- 「民間にできることは民間に」を基本に、ごみ収集業務の委託化や施設運営の民営化を進めます。

- 税等の活用を具体的に示すため、市バス停留所への営業係数の掲示、約400の市施設で運営コストと使用料や税での負担割合等を掲出しており、引き続き、よりわかりやすい「行政コストの見える化」を進め、市民参加のもと、行政の効率化を進めます。
- 公益性が低下又は民間事業者と競合する外郭団体は、京都市の関与を抜本的に見直し、解散又は自立経営化します。

一層信頼される市役所づくりに向け、組織の改革と職員の育成を進めます

- 「京都市職員力・組織力向上プラン」とコンプライアンス(法令遵守)を推進し、京都を愛し、創造的、意欲的な職員を育成します。
- 従来方式の採用試験に併せて、個別面接のみによる人物重視で採用する方式を新たに導入します。
- 人事評価制度を最大限活用し、能力・実績に基づく人事管理を徹底します。
- 職員が「真のワーク・ライフ・バランス」を実現し、社会参加、地域貢献に取り組む職場づくりを進めます。
- 民間企業など他団体との人事交流を積極的に行います。女性職員の管理職登用を進め、女性が活躍できる職場を作ります。

地下鉄の1日5万人増客目標の前倒しでの達成等により、経営健全化団体から脱却し、予定していた運賃値上げを回避します

地下鉄事業の徹底したコスト削減とともに、1日5万人増客の目標達成に向けた取組や、駅ナカビジネスの展開により、経常収支を黒字に転換し、平成30年度までに経営健全化団体から脱却します。

経営健全化計画(平成21年度~30年度)で予定していた運賃値上げを回避します。



(京都府庁)

(京都市役所)

府市協調による「さらなる二重行政の打破」と、
真の地方分権改革をリードする自治の構築、財政構造の抜本改革

市民・地域の提案をみんなで 実現する新たなまちづくりの 仕組みの構築など、 「市民が主役の市政」を 推進します。



人口減少社会の克服に寄与する提案を募集し、みんなで実現する「京都創生・お宝バンク」。この仕組みについて、募集対象を、より広く京都のまちづくりに寄与する提案に拡大し、市民主体のまちづくりの新たな仕組みを構築。また、パブリック・コメント等の効果的運用や、市政に対する市民理解を徹底して追求すること等により、市民の市政への参加と協働を推進します。

主な実績

- ◆ 京都ならではの地方創生「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略を策定、人口減少の克服、東京一極集中是正に挑戦、「年間3,600人の転出超過」(19年)から、「年間3,200人の転入超過」(27年)に
- ◆ まちづくりを企画・実践する市民組織「未来まちづくり100人委員会」の活躍と輪の広がり
- ◆ 市長と市民の皆様が未来の京都を共に語り合う「おむすびミーティング」を91回実施

主な施策

行政主導ではなく、
市民・地域からの提案や行動で動かす
まちづくりをさらに推進！
「みんなごと」のまちづくり推進事業」を
創設します

人口減少の克服をめざす取組提案を市民、地域、企業等から募集し、共に実現をめざす「京都創生・お宝バンク」を発展させ、募集する提案を、まちづくり全般に拡大。京都のまちの様々な課題を、「ひとごと」としてとらえるのではなく、市民と行政が「自分ごと」「みんなごと」ととらえて協働するまちづくりを進めます。

市民団体等と連携し、
京都への移住・定住を支援する
「移住サポートセンター」を創設します

移住希望者に、京都で暮らす魅力の発信、相談窓口、「しごと」「すまい」とのマッチング、「子育て支援コンシェルジュ」(新設)と連携した子育て関係情報の提供などを総合的に行う「サポートセンター」の仕組みを創設。近年の実績である、市内への転入超過数3千人をさらに拡大します。

市民と共に、人口減少を克服！
まちづくり活動支援施設
「まち・ひと・しごと・こころ京都創生館」を
開設します

「京都創生・お宝バンク」に登録された市民の取組提案を、提案者と共に実現するための活動の場を提供し、支援します。

市民、関係団体等の知恵と力を結集する
「まち・ひと・しごと・こころ京都創生協働
ミーティング」を実施します

市民、経済界、大学、地元金融機関、労働団体、メディア等と京都市が、人口減少の克服等の課題について意見交換し、課題、目標、行動を共有する場を設けます。

子ども、高校生、大学生など若者の
地域活動や市政への参加を推進します

大学と連携し、大学生の市政参加を一層促進。また、選挙権年齢の「18歳以上」への引き下げを機に、小中高生の選挙への関心を高める教育や、高校生等の選挙の立ち会い等のボランティアの促進などにより、地域活動や市政への参加意識を醸成します。

